

三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ



聴覚障がい青少年キャンプ(HHキャンプ)実施報告

8月13日～15日(2泊3日)の日程で六甲山YMCAにて聴覚障がい青少年キャンプ(HHキャンプ)を実施しました。1975年に香港で第1回目のHHキャンプが開催されて以来、33回の歴史を誇る国際キャンプで、海外からの参加者を含まないHHキャンプは今回が初めてとなりました。

今回は近隣からの参加者5名の他、東日本大震災の被災地である宮城県仙台市からの参加者2名を交え、総勢7名の仲間が集いました。

オリエンテーリングや様々な「グループワーク」ゲーム、野外料理、クラフト、また夜にはキャンプファイヤーと短期間ながら盛り沢山のプログラムを通して一つの家族となり、最終日には来夏、香港・マカオで開催される国際キャンプでの再会を誓いました。

当キャンプの実施にあたり、ご支援をいただいた三菱商事株式会社様、また、指導者養成にご協力いただいた大阪ワイズメンズクラブの皆様には心より感謝申し上げます。

参加者の声

初めての大阪YMCA聴覚障がい青少年キャンプに参加して、少し手話が出来ないで「どんな人に逢って私の手話は通じるかな」とすごく不安でした。でも、みんなに逢ったらすごく良い人達で優しい人達でした。私の手話がみんなに通じてよかったです。大阪YMCA聴覚障がい青少年キャンプで1番楽しかったことは、いっぱいあるけど私の中ではキャンプファイヤーがすごく楽しかったです。みんなとふれあいながら私にとって忘れられない夏の思い出です。自分の目標は、みんなと楽しく笑うことなので目標は達成したと思っています。初めての大阪YMCA聴覚障がい青少年キャンプ3日間は最高の夏休みの思い出でした。あっという間でみんなと別れるのはさびしいけど来年はみんなと逢えるのを楽しみにしています。来年は国際キャンプに行くのでコミュニケーションが難しいけど来年に向けて外国語や手話を勉強したいと思います。大阪YMCAのみんなありがとう。大スキです！



カヌーを楽しむ参加者



キャンプファイヤーで震災体験を語る宮城県仙台市からの参加者(右二人)



六甲山YMCAにて集合写真

HHキャンプの初日の活動の様子が8月14日の読売新聞(朝刊)に掲載されました。

8月14日 読売新聞(朝刊)

聴覚障害の子 六甲山キャンプ

被災地の2人も

耳の不自由な子どもたちに豊かな自然を楽しんでもらおうと、大阪YMCA(大阪市西区)が13日、神戸市灘区の六甲山YMCAで「聴覚障がい青少年キャンプ」を始めた。夏休みを利用して東日本大震災の被災地からも2人が参加。13

18歳の7人が15日まで交流を深める。

参加者は2〜3人1組になり、日中は手話で連携しながらカヌーなどを体験。夜には日常生活で困っていることなどを話し合った。

仙台市若林区の宮城県立聴覚支援学校1年家政勝さん(18)、仙台育英学園高2年理菜さん(16)の兄妹は震災で自宅が全壊した。勝さんは「神戸に来て、気持ち



カヌーを楽しむ家政理菜さん(手前)

を前向きに切り替えられた」と笑顔を見せ、理菜さんは「関西からも多くのボランティアの方が来て助けてくれた。感謝の気持ちを伝えたい」と話していた。